

## 令和4年度第4回高知県子どもの環境づくり推進委員会 会議の概要

### 1 日程及び議題

日 時：令和5年2月4日（土） 14:00～15:30

場 所：高知県庁本庁舎2階 第二応接室

議 題：（1）子どもの環境づくり推進計画について

（2）第3回子どもの環境づくり推進委員会におけるご意見への回答

報告事項：こうち子ども未来フォーラム2022について

### 2 会議の概要（委員からの主な意見）

事務局説明：（1）子どもの環境づくり推進計画について

資 料：【資料1】【参考資料1】【参考資料2】【参考資料3】

#### ●事務局から子どもの環境づくり推進計画について説明

令和5年秋頃に国において策定される「こども大綱」の内容を勘案し、令和6年度に「少子化対策総合プラン」「子どもの貧困対策推進計画」「ひとり親家庭等自立促進計画」「子どもの環境づくり推進計画」を束ね、すべての施策を一体的に見直し、充実させていきたいと考えている。本計画については、現在の計画期間を令和6年度末まで延長すること、令和6年度に施策体系を含めた抜本的な見直しを行うことを考えており、ご意見をいただきたい。また、令和5年度においては、当事者の意見を聞く取り組みとして、子ども委員の皆さんやOB・OGの皆さんの意見を伺う場を設けることを考えており、併せてご意見をいただきたい。（事務局）

- ・現行の計画期間を令和6年度末まで延長することについて了承された。

〈子ども委員等の意見聴取について〉

○実施する期間については、夏休みが参加しやすい。（委員）

○OB・OGの方に、大人に意見を述べる際に気をつけていることなどをお聞きしたい。（委員）

○OB・OGの方が、今までどのような活動等してきたのか、また、話し合いを進める上で、注意している点、注目している点についてもお聞きしたい。（委員）

○実施する時期については、受験勉強が始まるため夏休みが良いと思う。また、より多くのOB・OGの方に参加いただいて、さまざまな意見をお聞きしたい。（委員）

○子どもたちだけで交流する時間を設け、大人の方には見守っていただく形も良いと思う。（委員）

○以前、OB・OGの方が、子ども委員の活動が自信につながったと話していた。是非、前期の委員さんだけでなく、退任後に様々な経験を積んだOB・OGの方にも参加いただきたい。(委員)

事務局説明：(2) 第3回子どもの環境づくり推進委員会におけるご意見への回答 資料：【資料2】【資料3】【参考資料4】
--

●事務局から第3回子どもの環境づくり推進委員会におけるご意見への回答

○学校安全総合支援事業（災害安全）の拠点校はどこにあるのか。(委員)

○当事業における災害安全の拠点校は、三浦小学校（黒潮町）、足摺岬小学校（土佐清水市）、香南中学校（南国市）、県立嶺北高等学校である。(事務局)

○防災に関する事業について、広報に力を入れることで、参加者の増加や、防災に関心を持つ人が増えるのではないだろうか。(委員)

○学校での防災学習について、教職員によって、学習内容に差を感じている。(委員)

○教職員によって、防災への関心度合いが異なると、実際に授業を受ける生徒の関心度合いに影響が出ると考えている。教職員に関心を持ってもらい、一定の教育が行えるよう、今後とも研修等を行っていく。

防災事業に関する宣伝については、県内の学生を含め関心を持ってもらえるように取り組んでいく。  
(事務局)

○薩長土肥連携青少年交流事業について、学校の先生から紹介されたことがない。学校にチラシを配布するなどの広報を行うのはどうだろうか。(委員)

○広報について、チラシだけでなく、SNS等も活用しながらより周知していくよう担当部局に伝える。  
(事務局)

○デジタル端末が誤った活用をされないような小中学校からの教育が必要と考える。また、デジタル技術について、詳しく学んでいない学年や生徒にもスキル向上の授業が必要ではないか。(委員)

○デジタル技術については、社会の中で生活や仕事をする上で、必ず必要になってくるツールである。学校は使い方などの学ぶ場となるため、教職員が教えていかなければならない。また、情報モラルについては、今後も授業を通して教えていけるよう取組を進める。(事務局)

○近年、起こっている事件には、裏でスマートフォンが絡んでいる印象である。デジタル化と同時に、リテラシーについても教育していかなければならないと感じる。(委員)

○子育てにもスマートフォンが活用されている。1歳の子どもがスマホを渡すと泣き止むという話を聞いたことがあり、若い世代のお母さんを中心に活用されているようだ。幼い頃からスマートフォンで育つ子どもたちは、どう成長していくのか気になる。スマートフォンでの子育てにはリスクもあるということを伝えていきたい。(委員)

○デジタル化は、一方で危ない世界に入りやすくなるということを、学校で教えていく必要がある。また、デジタル化やスマートフォンの普及は、今後もさらに発展していこう。デジタル機器は道具にすぎず、その道具をどう使っていくのかを子どもに教えていく必要があり、大人もそれを教えられるようになる必要がある。(事務局)

○デジタル端末を使用する授業において、生徒が使い方を教わるまで待つことが多く感じる。何でも教えてもらえる環境で、自分で触れて考えて疑うという行動が少なくなっていると思う。教えるだけでなく、自分たちで探る機会をつくることも大切ではないだろうか。(委員)

○デジタルに限らず、教わるまで動けないというのは、社会に出た際に子ども自身が困ることになる。社会に出ると問題の「問い」や「答え」は自分で探さなければならない。学校はその練習の場となる。子どもたちには自分たちで考え、時には失敗することも経験して欲しい。教職員はそのような環境や時間をつくる必要がある。ただし、基本的な知識等は教える必要があるため、そこを見極めながら授業をしなければならない。(事務局)

○「校内適応指導教室」や「学習支援プラットフォーム活用モデル地域」の事業は、モデル事業として行われているが、実際に活用している子どもたちの意見も聞きながら、モデル事業終了後も居場所になるように取り組んでほしい。(委員)

○校内適応指導教室については、導入する学校で不登校の生徒が減ったという効果があると聞いている。モデル校の今後については検討中であるが、得られた成果はモデル校に限らず共有していく。(事務局)

○不登校支援について、様々な施策があるが、それでも支援につながっておらず長期化している子どもたちもいるのではないか。(委員)

○不登校については、長期化すればするほど戻りにくくなることが課題でもある。まずは、兆候を早めに気づき、不登校になった場合は早期に対応することが大切である。また、不登校になる背景や段階、状態は様々であり、どのような状況でも対応していくことが施策の要であると考えている。校内適応指導教室や保健室登校、また学校以外の居場所でも柔軟に対応していきたい。(事務局)

○家庭環境が厳しく、学校からアクセスしづらいケースもある。福祉においても、今年度から学校と連携し、スクールソーシャルワーカーなどの家庭支援の専門家と情報共有する仕組みづくりを行っており、さらに強化していく。(事務局)

事務局説明：報告事項：こうち子ども未来フォーラム 2022 について 資 料：【参考資料 4】
--

●事務局からこうち子ども未来フォーラム 2022 について報告

○他校の学生との交流で、日頃活動しているコミュニティの小ささを感じ、自身の固定概念についても変わったように感じた。参加人数が思ったより少なく今回より多い方が良い。(委員)

○たくさん子どもたちに参加していただくため、チラシ配布の他、毎年、高等学校の校長会にて説明をさせていただいている。今後もそのような場でしっかりと宣伝していく。(事務局)

○同じグループの人と交流する時間が少なく感じた。また、自身のグループ以外の人と交流する機会として、テーマごとの2つのグループが交流できる時間があれば良いと思う。自身のグループでは出なかった新しい意見が聞けるのではないだろうか。(委員)

○様々な学校の生徒が一堂に集まる機会は貴重である。グループの組み方や交流の機会については、いただいたご意見を参考に、来年度より良いものにしていく。(事務局)

○参加者のほとんどは高知市の学校に通う生徒であった。県内全ての学生に参加を呼びかけたい。CM等を活用することで広く知ってもらえると思う。(委員)

○チラシ等での案内は、県内全ての学校に行っている。広報については、SNS を活用するなど検討していく。(事務局)

- グループの中には、会場まで来るのに時間がかかったという人もいた。交通の便が良くなればと思う。(委員)
- 一日限定という理由で、参加ができないという人もいたと思う。夏休みに数日に分けて開催することで参加が増えるのではないだろうか。(委員)
- 予算的な制約もあるが、開催日程については検討させていただく。(事務局)
- 夏休みでも、部活動や補習で忙しい生徒がいるということにも留意するべきだと思う。(委員)
- オンライン参加を可能にすることで、参加がしやすくなると思う。高校生活は3年間しかないので、参加したいという思いに応じてあげられるように工夫できればよい。(委員)
- 来年度のフォーラムは、子ども委員を中心に意見を出していただき、それを学校に持ち帰り、委員からも参加を呼びかけて欲しい。(委員)